硫 黄 鳥 島

〇概況（平成 18 年７月）

５日に気象庁と東京大学が、22 日に気象庁がそれぞれ行った観測では、従来から見られていた弱い噴気が認められた程度で、火山活動に特段の変化はありませんでした。

５日に気象庁気象研究所と東京大学地震研究所が行った上空からの観測及び、22 日に気象庁長崎海洋気象台が行った海上からの観測で、島の北側に位置する硫黄岳火口付近と島の中央部に位置するグスク火山火口でごく弱い噴気が確認されました（図１～４）。長崎海洋気象台の観測時には、風下側にあたる島の北東側で火山ガスによる臭気が確認されました。周辺海域に変色水は認められませんでした。

各火口の噴気の状況は、2006 年６月 24 日に海上保安庁が行った観測時と比べ特段の変化はありませんでした。

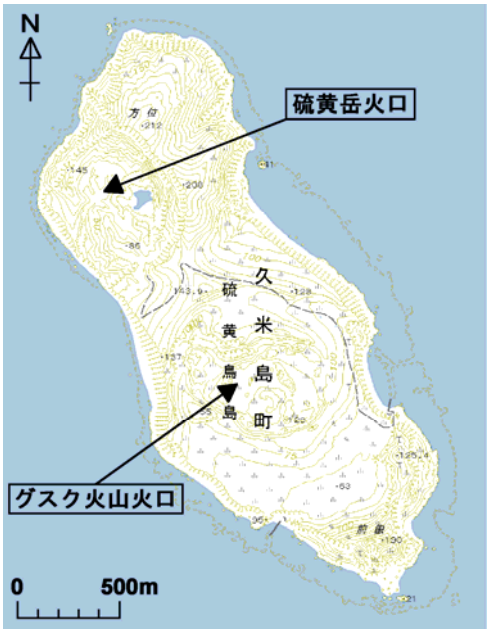

図１　硫黄鳥島　火口の位置図

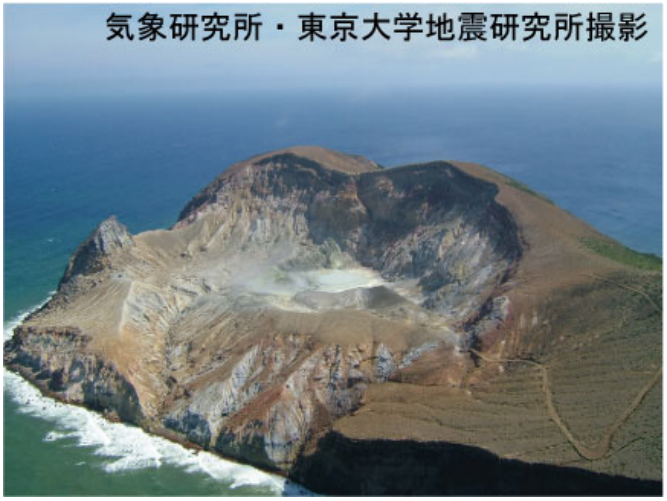

図２　硫黄鳥島　南側から見た硫黄岳火口
（７月５日）

図３　硫黄鳥島　南西側から見た硫黄岳火口
（７月 22 日）

図４　硫黄鳥島　東側から見たグスク火山火口
（７月 22 日）

※この資料は気象庁のほか、東京大学地震研究所のデータ等を利用して作成しています。
本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『25000 分の 1 地形図』を複製したものです（承認番号：平 17 総使、第 650 号）。

このほか、５日に気象庁気象研究所と東京大学地震研究所が上空から行った硫黄岳火口の赤外熱映像装置[1)]による観測では、火口にある水溜りの西側の灰色の噴出物（図５下段 の赤丸で囲った部分）の中央部で最高温度約 70℃を示し（図５上段のＡ内）、水溜りの北側の領域（図５上段のＣ内）の最高温度は約 60℃、火口に溜まった水（図５上段のＢ内）の温度は約 30℃程度でした。図５上段のＡ、Ｃ内で今回観測された最高温度は、2005 年 11 月 11 日の海上保安庁による観測結果と比べてどちらも若干高め（20℃程度）ですが、火山活動に特段の変化はありません。

1）物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

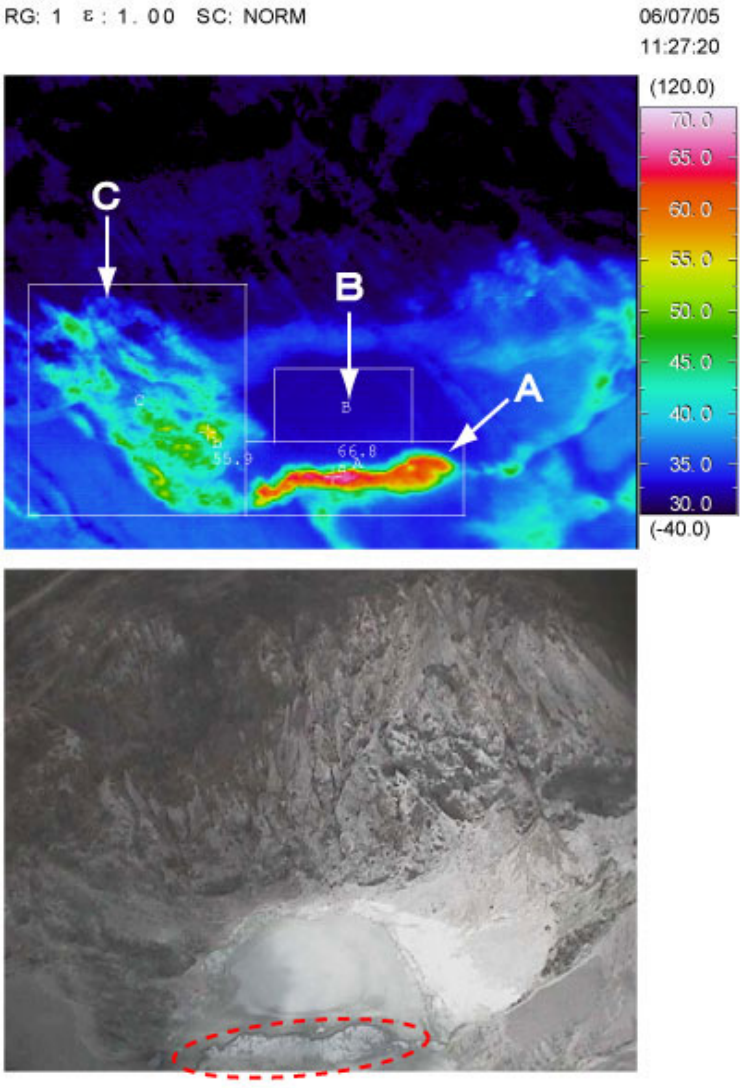

図５　硫黄鳥島　硫黄岳火口の赤外熱映像解析画像（上段）と可視画像（下段）（７月５日）

※　手前側が火口の西側にあたる

※　気象庁気象研究所と東京大学地震研究所の共同観測による